

聖霊降臨後第13主日（特定17） 説教

「いのちへの道が開かれるために」

〔旧約聖書〕	エレミヤ書 15:15~21
〔使徒書〕	ローマの信徒への手紙 12:1~8
〔福音書〕	マタイによる福音書 16:21~27

主の平和が皆さんと共にありますように。

「このときから、イエスは、ご自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっている、と弟子たちに打ち明け始められた。」

(マタイ 16:21)

先週の福音書の続きです。先週は、異邦人の地であるフィリポ・カイサリア地方で「わたしを何者だと言うのか」というイエスの問いにペトロが「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えました。その応えを受けてイエスはペトロに天の国の鍵を授けました。

その続きの箇所が「このときから」に続きます。ペトロの信仰告白の直後のイエスの受難予告です。この受難予告は全部で3回行われます。本日の箇所は最初の予告です。

ペトロは衝撃を受けたのだと思います。自分たちを救ってくださるお方が殺されるわけがない、いや殺されてはいけないと直感した彼はイエスをわざわざわきへお連れしていさめはじめたのです。

「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません。」(マタイ 16:22) と。

イエスは「サタン、引き下がれ、あなたはわたしの邪魔をする者、神のことを思わず、人間のことを思っている。」(マタイ 16:23) と言ってペトロを叱りつけます。

「サタン」とは行く手を阻む者、邪魔をする存在です。ここでペトロはイエスから「行く手を阻む者」「邪魔をする者」となっています。

ペトロからすればそのような者とされるのは心外だったと思いますし、ショックだったのではないのでしょうか。「私」は決してイエス様を邪魔しようと思ったわけではないのに・・・

ここで「私」が今日の福音書のキーポイントです。「私」のイエス様、「私」の教会という言い方をすることがあります。決して間違いではないし、むしろ信仰者として自覚を感じられる言葉だと思い

ます。しかし、「私のイメージするイエス様像」「私のイメージする教会」に捕らわれてしまっていないでしょうか。いわゆる「属格」のイエス、教会になっていないでしょうか。

ペトロはまさにそうだったのです。私のイエスさまは十字架に掛けられて殺されるような弱いお方ではないというイメージです。そのイメージを前面に押し出してイエスの行く道を阻んだのです。

決して悪気はなかったと思うのです。しかし、結果的には邪魔をしていたのです。

「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。」

(マタイ 16:25)

自分を捨てるとは自分の思いを絶対化しないで否定して、イエスの前に謙虚になることだと思います。イエス様の前にたちはだかつてはいけません。自分のイメージの中にイエス様を閉じ込めてはいけません。

わたしたちが真の平和（天の国の完成）へと向かって生きて行くために、イエス様は命の道をわたしたちに示され、開かれました。その示された道を私たちは自らの思いで塞いではいけません。

御心をわきへお連れするようなことがないように「イエス様の思いは何か」を常に私たちの心の中心におきましょう。